

平成 23 年 3 月 22 日

全国社会保険労務士会連合会会長
金田 修 殿
都道府県社会保険労務士会会長
殿

福島県福島市御山字三本松 19-3
福島県社会保険労務士会
会 長 鈴木 健夫

この度の東北地方太平洋沖地震の発生に際し、早速、全国社会保険労務士会連合会の金田会長をはじめ、各都道府県会長並びに多くの会員からお見舞や励ましの電話、メールを頂きまして誠に有難うございました。心から感謝申し上げます。

さて、当社労士会として地震発生から会員の安否確認に努めているところですが、通信網の遮断や放射能の人体への影響を恐れ、地元を離れ遠方へ避難している会員もあり、まだ確認のとれない会員も多数にのぼります。

また、この地震、津波により被害を受けた社労士の顧問事業所も多数あるものと思われ、事業所の休廃業等で会員社労士事務所の経営に少なからず影響が出るのではないかと懸念しております。

この巨大地震と津波による、浜通り、いわき地方を中心に福島県の被害は死者 737 名、行方不明 4,376 名、避難者 83,000 名、一般住宅の全損壊、半壊等 14,500 棟（全壊 1,347 棟、半壊 1,130 棟、一部損壊 12,036 棟 *3 月 21 日 13 時現在）、水道断水 39 事業体（全県 61 事業体）8 万 6 千戸、JR 全線運休（ごく一部 22 日開通）、停電浜通り 10 市町 3 万 8 千戸、田畑の海水による冠水、瓦礫、汚泥による被害、工場、事業所や漁業者等の被害も甚大で、被害総数は甚大なものになるものと思われます。こうした被害、ガソリン、灯油の供給ストップ、放射能の心配等のため業務（仕事）の稼働は浜通り地方以外でもまだごく限られた状態のままであります。

また、この地震による東京電力原子力発電所事故による放射能の拡散、人体への影響が非常に心配されることから、原発周辺 30km 以内では自治体ぐるみで県内や県外へ避難を余議なくされるところがあります。現在、国と関係当局が原発の復旧に全力で当たっているわけですが、この作業が成功裏に進展し、一日も早く復旧するよう祈るような気持ちで見守っているのが現状です。

この度のことは、我々が経験したことのない未曾有の厳しい事態ですが、会員は皆元気で頑張ろうとしていることをお伝えし重ねてお礼申し上げます。

